

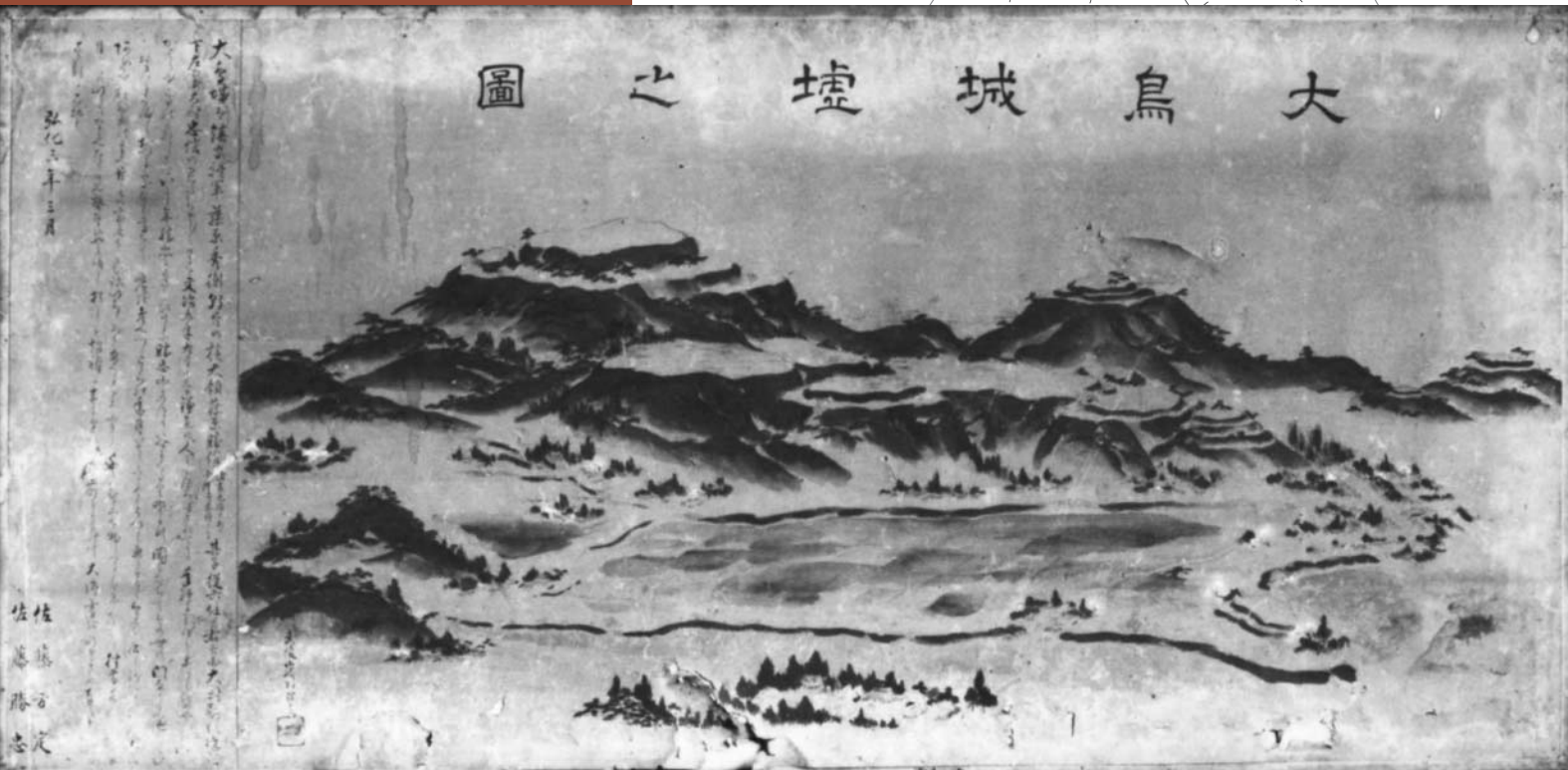
# あの頃の風景

おくのほそ道 第6回

## 地域経済の拠点として発達した「福島」

株式会社日本構造橋梁研究所  
今井崇 IMAI Takashi (会誌編集専門委員)

おい たち  
『笈も太刀も五月にかざれ昏幟』



①「大鳥城跡之図」弘化3(1846)年筆。医王寺より芭蕉が見た風景

元禄2(1689)年3月27日(新暦5月16日)に弟子の曾良とともに江戸深川を出立した芭蕉は、4月20日(新暦6月7日)に白河の関、22日に須賀川宿を経て、5月1日(新暦6月17日)に福島宿に入った。明けて2日、月の輪の渡しから阿武隈川を渡り瀬上宿を通過して医王寺に到着した。

医王寺は、大鳥城(現在は箱ノ山公園)を居城とし、信夫庄司といわれた佐藤一族の菩提寺である。佐藤継信・忠信兄弟は源義経の家臣として源平合戦へ従軍した。義経四天王随一の強者であった兄継信は、屋島の合戦で義経を狙った矢の盾となり命を落とす。一方、弟の忠信は、平家滅亡後に義経が頼朝との和を失った際、京都で追手から主君を脱出させるため「義経」を装い、敵を引きつけた後に討ち死にした。

その後、義経と弁慶は平泉に向かう途中で医王寺に参籠しており、残っていた義経使用の太刀や弁慶使用の笈が寺宝として保管されている。わが子を失い、悲し

みに暮れる佐藤兄弟の母「乙和御前」を慰めるため、奥方たちが甲冑に身を包み亡き夫たちの凱旋の雄姿を装ったという。この話に芭蕉は涙で袂を濡らし、一句詠んだのである。その夜、一行が宿をとった飯坂温泉には、芭蕉が入ったという説がある鯖湖湯が現存している。

当時の福島は貞享3(1686)年7月、堀田正仲が出羽国山形(山形県山形市)から移され、福島周辺10万石の領主となった頃で、福島城(現在は福島県庁)を中心とした城下町を形成していた。幕府によって街道とともに各地の宿場も整備され、地域経済の拠点として発達していった。信達地方は古くから養蚕が盛んで、福島宿は商業も発達しており奥州街道の中でも大きな宿駅であった。近世以来、養蚕業の技術的水準が高く評価されていた理由として、この地域が養蚕業に欠くことのできない桑樹の栽培に適したことや風穴などが蚕種の保存に利用できるなどの自然環境に恵まれていたことが挙げられる。

幕末開港後、養蚕業は急速な発展をとげ、明治10年

代には農家経済の中心をなしていた。明治期を通じて、全輸出額の40%を超える実績を持つ生糸および絹製品の基盤である養蚕業の改良発達は、政府の重要な施策の一つであった。鉄道は明治20(1887)年に郡山~仙台間、明治32(1899)年5月には南奥羽線のうち、福島~米沢間が開通した。同年7月には待望の東北初の日本銀行福島出張所が開設され、金融界の大御所を迎えて福島商業は一段と活発になっていく。

その後、第一次世界大戦終結後のアメリカの景気後退による糸価の暴落や、第二次世界大戦中の生糸の割り当てによる繭生産の制限で、桑園から果樹園への転換が進んだ。特に桃は「桃栗三年柿八年」といわれるように成木が早く桑園にも栽植されるに至った。現在福島市は、一年を通じてサクランボ、桃、梨、葡萄、柿、林檎が楽しめるフルーツ王国となっており、飯坂町から上名倉を結ぶ県道5号線は沿道に観光果樹園等が多いことからフルーツラインとも呼ばれている。

城下町として栄え、明治には生糸の輸出で東北経済の中心となり、昭和から現在にかけてフルーツ王国となった福島市。明治以降道路の改修工事が進められたが、今なお各町には当時の通りや小路が見られ、まちなかを散策すると、その風情と歴史を感じることができる。

### <参考文献>

- 1) 『福島市史 第1巻 原始・古代・中世(通史編1)』
- 2) 『福島市史 第4巻 近代I(通史編4)』
- 3) 『福島市史 第5巻 近代II(通史編5)』
- 4) 『福島の民俗I「福島市史」別巻III』
- 5) 『福島の文化「福島市史」別巻VII』
- 6) 『ふるさとの思い出 写真集 明治 大正 昭和 福島』図書刊行会 昭和54年7月
- 7) 『特別展 芭蕉と福島』パンフレット 福島市資料展示室 平成24年4月1日~6月25日開催
- 8) 『明治32年(1899)版 福島市街明確全図』奥州街道福島村 平成24年5月

### <取材協力>

- 1) 福島市教育委員会 文化課 市史編纂室
- 2) 医王寺

### <写真提供>

- 写真①、②、④、⑦、⑨ 福島市史編纂室(※①医王寺蔵)  
写真③、⑤、⑥、⑧ 筆者



②(上) 大正期の鯖湖湯。芭蕉が入ったという説がある  
③(右) 現在の鯖湖湯。改築を行っているが外観は昔のままである



⑥(右) 激動の時代を乗り越えた旧店舗に代わり、現店舗は昭和55(1980)年に完成した  
⑦(下) 大正期の日銀東北支店。明治44(1911)年6月に福島出張所は支店に昇格。福島明治洋風建築の代表となった



④(上) 明治36(1903)年1月竣工の駅舎。昭和37(1962)年の民衆駅に改築されるまでの長い間「福島停車場」の名で親しまれてきた  
⑤(左) 現在のJR福島駅。東北本線、東北新幹線と当駅を起点とする奥羽本線が乗り入れている



⑧(左) 現在、街なか広場となっている福ビル跡地。市民のイベントや発表の場として利用されている  
⑨(下) 昭和32(1957)年頃の福島ビルディング(通称福ビル)。通りには軽便鉄道(チンチン電車)が走っており、昭和45(1970)年まで市民の足として活躍した

